

主の昇天 5月4日

(マタイ 28・16—20)

神の願い

わたしたちは、神に願う。わたしたちの祈りは：ほとんど「お願い」の祈りではなからうか。わたしたちが願うより先に、神はすべてをご存じなのに。何度も何度も同じ「わたしの願い」をつぶやいているのではなからうか。かつてイエスは言われた。「何よりもまず、神の国と神による解放を求めなさい。そうすれば、すべてのものは与えられる」と。

わたしたちは願うばかりで、神からの願いにあまり耳を傾けようとしない。神こそ、わたしたちに願っておられる。神こそ、わたしたちに期待しておられる。何よりもまず、神の国と神による解放を求めることを。必要なすべてのものは与えられている。父のもとに戻られたイエスは父と共に聖霊を送ってくださいました。わたしたちは、その父と子と聖霊に包まれている。

主が世の終わりのまで、いつも、一緒にいてくださる。
この恵みの中で、わたしたちは生かされている。

わたしたち一人一人には「使命」が与えられている。使命とは「命を使う」こと。何のためか。それは、神の願いをこの地上に。



上に実現するため。

神の願い。それは「神を愛すること。自分を愛するように他人を愛すること」。

「アースデイ」という日があった。米国のある人が三十年ほど前に「地球を想い、大切にすること」を提唱した。その日は四月二十二日。「今、地球が泣

いている」。何かできないだろうか。子どもと共にささげるミサを機に、幼稚園の職員、園児、その家族にも呼び掛けた。素晴らしい地球という恵みを頂いたことに感謝し、今、危機にある地球のために何ができるかを考えた主日のミサの後、教会のそばにある川の土手のゴミ拾いをした。ラジオでも新聞でも呼び掛けた。二百人ほど集まった。

今、わたしたちは「救い」を宇宙レベルで考える。救いはこの世で生きた(生かされた)わたしが、その命を終えて天国に行くことだけだろうか。わたしさえよければ、それでいいのだろうか。神は世界(宇宙)を造られ、人が生きる場としてくださった。この世界で生きているのは人間だけではない。動物も植物もみな神から命を頂き、生かされて生きている。

「救い」はこの世界で救われること。これが神の意思、望み、願いではないか。神はすべ

この被造物を生かすために造られた。苦しむためではなく、幸せになるために造られた。悪の存在は神秘ではあるが、主はいつも共にいてくださる。人は悪に勝つことができるのである。地球を守ること。それは単に人間のための環境問題ではなく、命の、そして救いの問題、課題なのである。地球を守ること。それは、人の願いではなく、神の願いなのである。人に使命を与えて天に昇られた主は、その使命の実現を願っている。

(山元真一 福岡教区司祭)

この週の福音

| | | |
|-------|-----|-----------|
| 5日・月 | ヨハネ | 16・29—33 |
| 6日・火 | ヨハネ | 17・1—11a |
| 7日・水 | ヨハネ | 17・11b—19 |
| 8日・木 | ヨハネ | 17・20—26 |
| 9日・金 | ヨハネ | 21・15—19 |
| 10日・土 | ヨハネ | 21・20—25 |

